

## 会議録要旨

会 議 名	第4回 恵庭まちづくり基本条例制定市民委員会
会議日時・場所	平成23年12月21日(水) 15:00~17:00 市民会館 第1会議室
出席者	委員長 横山純一 副委員長 小山忠弘 委員 相坂正一 泉谷 清 鎌倉洲夫 高橋 修 松尾重喜 雪下 章 山口裕美 藤本恵美子 石垣周一 菅原宏輔 事務局 寺内企画振興部長 桑山政策調整課長 広中主査 栗野主任

<b>1 開会</b>	
委員長	予定の時間になりましたので会議を始めたいと思いますが、最初に市の方から説明したいことがあるということです。お願いします。
	桑山政策調整課長から、平成23年第4回定例会で議決された「恵庭駅舎改築促進期成会への貸付金債権の放棄」について、市のホームページの説明文を基に経過を説明。
委員長	新聞でも何度か報道されているということでしたが、今の説明に対して質問はありますか。
	<b>【質疑・意見】</b>
	○債権放棄ということだが、消滅時効期間を経過して時効消滅したわけではないのか。
[事務局]	私法上の債権であるため、時効消滅するには債務者による時効の援用が必要になるが、債務者である団体に意思表示能力がなく、時効が完成することがないと考え、権利の放棄の手続きをとったもの。
	○今回、まちづくり条例制定市民委員会にあえてこの件を説明したという意図は何か。
[事務局]	この貸付は、今から26年前、現市長から4代前の市長の時代に行われたもの。この件を通して「市長の責務」とは、「市民の責任」とは、あるいは「議会の責務」とは何なのかと考えることを示唆する事例になるのではと考え報告させていただいたもの。
	○この市民委員会でこの問題を深く議論するというにはならないだろうが、議会の本会議や委員会を傍聴したところ、当時の会議録の公開もなく、今さら仕方がないという方向で議論されていたように感じたのが残念。また、利息について一切触れられていなかったのが疑問。「回収できなかった金額は大きい、まちづくりにとって有効だった」と市側が答弁したが、まちづくりの問題と債権の問題は全く別ではないか。その辺を委員会で追求がなかったことが非常に残念。
[事務局]	契約では、無利息となっていた。また、当時の会議録を調べたところ、特段の質問もなく全会一致で可決されていた。
	○であれば、当時の議員は、市長の提案を何も審議せずいいですよとしたということか。
[事務局]	本会議の会議録だけ見ればそのように感じるのかもしれないが、当時の期成会の構成は、市のほか議長、副議長をはじめ各会派の議員、商工会、農協などの経済団体、町内会連合会などで、まちを挙げて進めたいという方針に沿って提案されたものであり、確認はできていないが、議案として上程されるまでに議論されていたものとする。
	○黄金土地区画整理組合が解散したから返済の見込みがなくなったということだが、1億に足りなくとも2千万円くらいかかったと聞いている駅東口に設置したスズランを抱いた乙女の像の費用

などを充てればよかったのではないか。そういう働きかけをせず、年数が経って誰もいなくなったから債権を放棄するかという他の料金の徴収漏れなどとも関連する役所のずさんさではないか。このまちづくり基本条例で、市長が何をするのか、議会が何をするのかを決めていかなければならない。

[事務局] 行政としてそういった批判の矢面に立たなければならぬと考えている。まさに条例でそうしたことを定めていくことになると考えている。

○内容についてはよく分からない。しかし、これまで議会で報告したからよしとしていたものをこういった場で報告すること、ホームページにすぐに掲載することなどについては評価ができる。

○この件に関してこの場で言うことは本来の目的から外れてしまうため控えるが、議員は市民の代表として血税を大事に使うということを心してほしい。

○こういうことがあって、他にもあるんじゃないかと詮索してしまう。他は大丈夫なのかと心配してしまう。我々市民もうそうだが、議会は市をよくチェックしてほしい。

## 2 まちづくり基本条例・まちづくりに関する意見交換

委員長 今後、委員会や部会で具体的に条例について議論していくこととなりますが、本日はその前段として、委員の皆さんが感じているまちづくりなどについてざっくりとばらんに意見を述べていただく場として設定しています。

話の取っ掛かりになるかと思われるテーマを用意したので、このテーマによる必要はありませんが、話題の参考にしていただければ結構です。

### 【参考テーマ】

- ・ 恵庭の良いところ、悪いところ
- ・ 市職員に望むこと
- ・ 市長に望むこと
- ・ 議員に望むこと
- ・ 住民と行政の協働とはどういうものか
- ・ 住民参加をどうすすめるのがよいか

### 【意見】

○意見交換に入る前に、先日部会の所属希望の調査をしたが、その結果は本日示されないのか。

[事務局] まだとりまとまってないのでお示しできない。とりまとめて郵送でお知らせしたい。

○1か月も期間があつて提出していない委員がいればなぜ催促して取りまとめない。今日は当然所属部会が示され、それに基づいて話をするものと考えていた。とりまとまっていないからこのようなテーマを掲げなければならないのではないか。スピード感というか進め方をもっときちんとしてもらいたい。

[事務局] 希望調査をしたときに提出締め切りを設けなかったため出揃っていない。

○締め切りを設けなかったのは別によい。なぜ提出していない人に催促して取りまとめない。

[事務局] 本日その確認をすることとしている。

### 【意見交換】

○恵庭は、住んでいる人の多くが好きだと言っており、全体として「いいまち」なんだと思う。ただ、恵庭は何のまちと答えられるような特徴がない。住むには良い所だが、まちをアピールすることができないでいる。

職員として行政が閉ざしているという意識はないが、開かれていないと感じられているのであれば伝え方が悪いのではないかと感じている。

<p>協働ということについては、責任分担というか何をどう進めるか同じ認識であることが大事なのではないかと思う。</p>
<p>○条例案づくりの進め方について意見を述べたい。自治基本条例を目指すのか行政基本条例とするのか方向が決まっていない。やり方として、まずどのタイプの条例を作るのかきちんと決めてから進めるべきではないか。部会の所属意向について事務局から聞かれたが、作るべき条例によって必要な部会も変わるのではないか。</p>
<p>○30年くらい首都圏で暮らし、その後室蘭、帯広、札幌、函館で暮らした。結果的に恵庭に一番長く暮らしている。退職して職から離れた3か月間に初めて恵庭のまちなかを足で歩いた。茂漁川の河畔のウッドチップの散策路や総合体育館、居心地の良い図書館があったりと、このまちで暮らす快適さというのを改めて感じた。そういったこのまちにあるものを自分たちで見つけ、皆で認識することで地域としてのまとまり、絆のようなものができれば良いと思う。町内会の役員もしているが、災害時要援護者をどうするかなど、最後は人と人とのつながりが頼り。ハード面のハコモノは基盤としてできあがっていると思うので、それをどう使うか、そこで活動する人達が力を合わせどうやってまちを作っていくか、ということテーマにしていけばよいと思う。</p>
<p>○恵庭の良いところと悪いところを考えた。恵庭に住んでいて悪いところは思いつくが、良いところが思いつかない。友人たちと恵庭について話をしても「花」しか出てこず、ほかにはないのかなと思う。特色がないという意見があったが、伸びしろがあるともいえる。恵庭には可能性があると考えるとその点が良いところと考えられる。</p>
<p>市職員として感じていることは、市民を上から目線で見ているかのような職員がまだ残っている。市職員はサービス業なので、サービス業であるという姿勢を忘れないようにしたい。</p>
<p>以前のまちづくりは市が主導的に行ってきた。近年では、市民と協働という形になっている。未来においては、市民がまちづくりを推進し、市がそれをバックアップする形になると思う。</p>
<p>○NPO法人で市民活動、町内会での自治会活動をしているが、ベースにあるのは市民が主体性を持ってまちづくりをしようということ。</p>
<p>シーニックバイウエイ北海道で活動をしている。従来は国が提案して市民についてこいとしていたものを、シーニックは地域提案型で、これは良いと思い活動している。</p>
<p>市内には63の町内会がある。相生町だけ自治会としている。この町内会は誰のためにあるのか、自分たちのためにある、お互い助け合い支えあっていこうという理由からこうなった。スタート時、「相生町を良くする会」を始めた。役員たちは、委員を公募しても誰も集まらないだろうと言ったが、公募したところ16名が集まった。13か月かけて議論をし、何十項目の意見が出た。この意見をどうするかということから規約を作って役割を決めるべきということで自治会ができた。予算の使い方もゼロベースで見直した。</p>
<p>そこで、恵庭市は誰のためにあるのかということになるのだが、長くなるので控えるが、ベースはそういうことと考える。</p>
<p>○恵庭に住んで13年、年々恵庭の快適度では満足してきている。いいところだという認識だが、悪いところを挙げると市の職員に結びつくが、新聞に企業誘致に出かけたら本州の中小企業の4割が恵庭を知らなかったとある。これはまさに恵庭市の発信力の弱さだ。仕事として企業誘致の担当者に任せっきりで、後は俺の仕事じゃないとやっているから、日本の企業の4割が恵庭を知らないという非常に恥ずかしいことになっている。市の職員は、千歳の隣なんだから当然恵庭は知っているだろうという意識であるからダメ。もっと市役所全体がセールスマンとして横断的に発信力を高め、イカール星人などはユーチューブで函館のまちが全世界にいくわけだから、なぜ市の職員の中でそういうことができないのかというのが一点。</p>
<p>二点目は、市職員に望むことだが、大分県大山町は、矢幡町長が52歳で就任したときに、それまでの農業構造を変えるために、「桃栗植えてハワイに行こう」というキャッチフレーズで運動を始め、実際にハワイに行った。就任したときに職員に「役場職員というのは、仕事はスピード、</p>

<p>スマイル、スモール、シンプル、システムを心がけなければならないが、あなたたちを見ていると、スリープであり、ストップであり、サボタージュであり、スローであり、スキャンダルであり、スクラップだ」と言った。キャッチフレーズどおりに農業構造を変え、桃栗を植えることによって今でも毎年ハワイに行っている。恵庭市の職員は、何もしなくても自分で責任は取られないわけだから、ただ黙って座っていればいいという意識はそろそろ打破しなければならない。どこかで提案しようと思っているが、地区分担制を取り入れて、朝出勤してパソコンに向かう前に、それぞれの自分の地区を回ってチェックしてくるぐらいの姿勢を持たなくてはいけない。</p>
<p>○恵庭は誰もが認めるように交通の便がいい。また、災害が少ないというゆとりがある。</p> <p>これまでまちづくりというと、どこのまちでもハコモノ行政が行われてきた。しかし、我々は、生命の原点に戻って「心」というものを大切にしなければならない。昔は何もないところで隣近所が助け合って生活してきた経験がある。そういった原点に戻って、心とそのための人づくりを中心にしたまちづくりができないだろうかという思いで公募委員に応募した。</p> <p>大きな心のビジョンを掲げ、付随した住みやすいまちのため安心安全を中心に、子育て対策・女性の就労支援、恵庭に行ったら女性が安心して働けるという環境を作るようなまちづくりをするなど、ハコモノに傾かないまちづくりを進めたいと思う。</p>
<p>○いろんな所に行って視野を広げようと行動している。また、時間の制約はあるがインターネットでいろいろな市町村のホームページを見るということに努力している。</p> <p>恵庭市だけがこうだというやり方にはあまり賛成しない。近隣市町と互いに手を結びながら、話し合いながら、恵庭をどうするか考えるという視野でやっていきたい。</p> <p>情報公開が重要。ただ花のまちだよというだけではダメ。石狩がデータセンターを誘致したが、10月に訪れた視察団は、美唄、旭川、苫小牧、千歳を回った。恵庭を通り越しており、市の担当部署に尋ねたところ、そういうことがあったことを知らなかった。職員は、情報の発信と収集に努めなければならない。</p>
<p>○住民参加をどう進めるかということで意見を述べる。自分は空知地方の小さい町出身で、恵庭と比べるとはるかに高齢化が進んでいる。住民参加を考えるときに、子どもの世代・孫の世代の住民参加をどのように促していくかという視点がないように思う。他の市町村を見ても、ざっくりと協働を謳っているが、次の世代に繋がる協働のまちづくりについて条例で規定していけたらいいと思う。</p>
<p>○行政改革の委員を長くやってきた。市では毎年多くの事業が実施される。終わった事業の成果については全く評価されていない。市民に対してどのようなサービスを提供し向上が図られたか、あるいは経費が節減されたか。民間であれば、成果をチェックし次の事業に反映させていかなければ経営がうんくいかない。それが行政では、予算を付けただけで終わってしまう。</p> <p>そういう取り組みをしないと行政サービスは向上しないと言い続けてきたが、なかなか実現しない。なぜできないか。管理職も一般職員も仕事に対する意思改革ができていないのではないか。与えられたことを消化することが目的であってそこで完結してしまうため、新しい事業にフィードバックするシステムができていない。市民に対するサービスの向上のためにそういった視点が欠落している。今後はそういう視点を是非取り入れて、まちづくりを進めてほしい。</p>
<p>○30年以上恵庭に住んでいるが、良いところとなると自分の行動範囲で知っていることに限定してしまう。外でも良いところはいっぱいあるのだろうけど意外に知らない。恵庭で商売をしているが、意外と「つながり」がないまちなんではないかと思う。数十万人が花野菜に来たという新聞記事を見て、そんなに大勢が来たのにうちに寄った人がいたのかと考えると、「つながり」があればまち全体に人が行く仕組みができるのではないかと思った。</p> <p>学生時代に建築の面から勉強していたまちづくりでは、住んでいる人が住みよいまちづくりと訪れる人が素敵だねというまちづくりのどちらがよいかを考え、やはり、住んでいる人が自分のまちはいいよと言えないと売り込めないと思った。自分が住んでいるまちを好きだと言える人が増</p>

<p>えないといけない。相生町の自治会の話があったが、地元の保育園に自治会の方々が毎年餅つきに行っている。街で見かけたときに園児が「餅つきのおじさんだ」と声をかける。こういう例が一番分かりやすい「つながり」なんじゃないかを感じる。そういった単純なことをまちづくりにどうやって取り入れたらよいかと考える。また、言い方が適切でないかもしれないが、拾われたい層の意見をどうやって取り入れたらよいかということも考えさせられる。</p>
<p>○若い世代につなげるという話があった。年配者からは、知識と経験に基づくパワーがあると自負もするところだが、現実には労働年齢層から外れつつあり、現役世代が参加してもらう必要を感じる。しかし、この会議なども平日のこの時間の開催であれば現役世代は参加できない。担当の職員には、現役世代が参加できるよう夜間・休日も厭わずやってほしい。</p>
<p>評価の話があったが、行政は図面を書いたり計画を作り、それを議会に説明して公表されれば、本当はそこがスタートなのだが、その時点でエネルギーを使い果たしてしまい作ることによって終わってしまっているのではないか。その点から評価をすることはとても大事だ。ただ、行政はサービス業で、売り上げのような指標がなく、市民のアンケートというか感想にすぎないようなものが評価になってしまうのかなとも思う。評価については必要だが、その指標というか手法について何か検討しているものはあるのだろうか。</p>
<p>[事務局] 現在、恵庭市行政改革推進計画を作成中。その中で評価システムを明らかにしていく。評価システムを基に2～3年の施行期間中に、事業別に評価基準を数値化できるものできないものなど何パターンかで評価しようと考えている。また、その評価を市民はどう捉えているのかということ把握するため、アンケートをとることなども考えている。</p>
<p>○評価の対象となる目標に関して、必ず窓口はどうするんだという話になる。しかし、年度末から年度初めにかけて住民票などの窓口は大変混雑する。そこに他の部署から応援を要請して対処するなどの臨機応変な対応、あるいは、曜日によって繁閑があるところに着目してそれに見合った人員配置をするなど、知恵を出して仕事のやり方を見直すなどの目標が立てられるだろうと思う。</p>
<p>○長く行政改革に関われた委員からは、まとめてもそのとおりにやらないという嘆きをずっと聞かされてきた。なぜ行政評価がうまくいかないかを考えると、その原因のひとつに議会がチェック機能を果たしていないということが挙げられる。理事者も議会の最大会派と話がうまくいってしゃんしゃんといけばよいというやり方でやってきているからダメで、これからの市議会の議員は、事務局から出された資料に対しては徹底して各会派で真剣に議論をし、理事者を問い詰める担当者と呼んで厳しく聞くなど議員自身が勉強していかなければもうダメだと思う。</p>
<p>数値目標については、行政は市民のためにあるのだから、何年計画でどこまでやったかではなく、市民の満足度が指標になるべきと思う。</p>
<p>先ほどの住民参加の住民に子どもや孫の世代をどう取り込んでいくかという意見は、これからの恵庭を考えると大変重要な話だと思う。東京はじめ本州の多くのまちでは、学校は単独ではなく幼稚園や福祉施設との複合施設として建てている。そうすることにより子どもたちが小さい子どもや高齢者などと交流することができる。これからはそういった視点で考えることが重要。これからの施設は複合化し、少子高齢化の中で世代間交流をどういう仕組みで作っていくんだという考えで進めることが大事。カリンバ周辺に学校を造るとすれば、全国で初めて1階が博物館で2階以上が学校という全国に売り出せるような特色のあるものを考えてほしい。</p>
<p>○今日、プレイセンターで活動する30代の母親が二人自分を訪ねてきて、映画をやりたいと相談された。よく聞いてみると、子ども達を山に連れて行き、そこをプレイセンターや保育所として自分たちで遊びを考え、親は後ろから見ていることを試みようとしている。そういったことをやろうとしている親たちがいる恵庭は非常に面白いと思った。恵庭の年代構成は30代が一番多く、次が20代でその次が40代。多くが60代が一番多いと思いついでいる。年寄は経験があるから黙ってても死ぬまで一所懸命頑張るから大丈夫。30代20代が多いにもかかわらず10代以下はその半分である。まちづくりにおいてはそこに着目しなければならない。</p>

<p>自分は国家公務員OBだが、当時部下は決裁がはしょくて汗をかいて自分のところに来た。判をもらうために90%くらいの能力を使うが、その後どうなったかは何も付いていない。計画した後を調べるくらいのことを部長などがやっていけば変わっていくと思う。</p>
<p>○恵庭はいいまちだと言いながら、市教委に聞いたところ小学校を卒業した後札幌の私立に行く子どもが結構いる。また、そのために転居する者もある。本当に恵庭の教育は大丈夫なのかと考えさせられる。</p>
<p>第2和光小学校の建設がなくなって希望がなくなったが、学校を建設する場合は複合施設で建設すべきと提案した。北広島市や札幌市で前例があるにもかかわらず、補助金の関係で大変だから複合化は難しいと言われた。</p>
<p>また、総合防災訓練を見学して、自衛隊員や消防職員がとてもきびきびと仕事をされていると感じたが、ホームページの市民掲示板には違う書き込みがあった。そういうところに市民の本音があると思う。市長へのまちづくり提言というのがホームページにあるが、苦情はご遠慮くださいとされている。苦情にこそ本音があるのではないか。</p>
<p>総合防災訓練はすごい計画だった。終わった後担当課に行ってもその後何かしたか聞いたが、特に何もしていないとのことだった。つまり、評価をしていない。</p>
<p>今日は市議会議員も何名か傍聴に来ている。4年前とは変わり、勉強している市議会議員も増えてきていると感じている。</p>
<p>○市職員としては、閉鎖的という意識はないが、発信しているとも言えない。発信力の低さという点にはそのとおりだと思う。職員に情報は入ってくるが、それを発信していくことができていないと思う。</p>
<p>○子ども・孫世代の住民参加という点では、地域コミュニティーへの参加、町内会行事などに参加することが次代に繋がることになるかとも考える。行政の発信力という点では、伝えていくという意識がないわけではないと思うが、実際届いていないということであれば考えなければならないと思う。</p>
<p>○あちこちのまちづくり活動に顔を出しているが、まちづくりに一番非協力的なのは役場職員と学校の先生だとよく言われる。自分たちがそのまちの市役所の職員であるためには、自らの地域に出て様々な活動に参加するだとか青年たちとグループを作るだとかそういう役割を担ってほしい。シボラのようにもっと積極的に市役所の職員にはやってほしい。</p>
<p>○過去、恵庭市の職員は、「まちけん」という伝説的な活動を行っていた。そういう中で市民と一緒に活動する非常に先進的な自治体という評価を得ていた。最近、恵庭市の職員のそういう活動の話聞かない。自主研究グループなどの活動が活発でなくなったのではないか。</p>
<p>○シボラの活動に参加しているが、今年の夏休みに福島の子供を招いた事業の手伝いをしたほか、冬場は老人世帯の除雪などを行っている。なかなか行政としてできないところをケアしている。</p>
<p>○道内で話をするときシボラの紹介は必ずしている。シーニックバイウェイ北海道では、キャンドルナイトをシボラの協力で行っている。ここにいる職員の委員は是非参加してほしい。</p>
<p>さきほど福島の子供たちの「元氣回復事業」の話があったが、これは若い職員の方たちが本当によく頑張っていた。市役所庁舎を使って肝だめし大会をするなど大変面白いことをした。若い人でなければ出ないアイデアではないか。打合せをしたときに意見を求めたところ「入ったばかり（採用されたばかり）だから」と言った職員がいた。そういうことではなく、もっと意見を出し合っていけばこういう肝だめし大会などに繋がる。恵庭市の職員はすごいと思う。除雪のことでも帯広市から視察が来たはずだ。市の職員にもすごい人がたくさんいるから、誰かが引っ張れば必ず出てくる。自信をなくさないで頑張してほしい。</p>
<p>○民間経験がなく大学卒業後公務員になったが、実施した事業を評価し次に反映させていくということが大事なんだと感じた。職員という立場だけでなく、大学の土曜講座などに参加して、市民としても知識を高めたいというように考えている。</p>

<p>○先日行った講演会で聴いたマクドナルドの話で、マクドナルドでは3歳から6歳の子どもをターゲットにし、おもちゃ付の商品などで取り込んでいる。3歳から6歳までに食べた物は大人になっても食べるという理由からで、これからはサラリーマン層向けの商品も考えていると言っていた。今まで話を聞いていて、自分が子どものときに町内会のクリスマス会とかに行っても楽しかった思い出があるため、今もクリスマス会や餅つき大会が町内会で催されると行こうという気持ちになる。子どものときに行かなかった人は、大人になってその催しがどういふものか分からないだろうし行こうという気持ちにならないのではないか。子どものときに経験しておけば、それが体験となって大人になってもやろうという気持ちになるのではないか。</p> <p>男性は発言する機会が多いと思うが、専業主婦など家にいる人などは、インターネットなどでは発言できるが、このように顔を合わせて発言することができないと思う。そういった人達には可能性がいっぱいあると思っている。</p>
<p>○北大の大学院生が来て、NPOで一緒に活動したいと言ってきた。知り合ったきっかけは、先日やった「ツナガルc a f e」のフェイスブック講習会で、それがつながっている。</p> <p>つながる方法はいろいろある。インターネットだけでなくいろいろある。</p> <p>インターネットだけで描いた油絵の販売をしている女性がいる。それを知って市民プラザアイルで個展を開くよう持ちかけ、1月6日から20日まで開催する。インターネットだけではもったいない。外に出ている人となつなぐことで活躍できるステージは広がると思う。</p>
<p>○恵庭の子育てはどうなっているか調べるとき、市民は分かるが遠方の方はホームページに頼らざるを得ない。ホームページを充実させてほしい。インターネットを上手に活用して発信力を高めてほしい。</p>
<p>○恵庭のカントリーサインについては何度も指摘をしているが、「その管轄は開発局で私たちではありません」と恵庭市の職員は言う。一方、長沼に行くとき非常にカラフルなローカル色のものが付いている。それは開発局ではなく長沼の強い要望が反映されている。恵庭が花と水のまちだというのなら、あのパソコンのカントリーサインではなくて、なぜ花と水と緑のカントリーサインにならないのか、これは市役所のやる気の問題だ。</p> <p>住民参加をどうするかということになると、様々な市民のつながりの仕組みを津々浦々でどうやって作っていくかということである。いろんなところで個人でもいいしグループでもいい、つながりの仕組みがまちづくりの住民参加につながるという発想でいくべき。</p> <p>市民と協働とよく使うがきちんと定義されていない。平成20年に出された協働の指針においては3つほど示されているが、一番大事なのは行政と市民が対等であること。二つ目は情報を共有すること。役所という一段高いところから情報を出すということではダメ。役所も市民をお互いが知恵と技と場合によってはお金も出して、責任までも共有できるように市民の成熟度を高めていくということも大事。</p>
<p>委員長 ホームページについてよく話題になるが、恵庭市のホームページでは、細かいところまできちんとアクセスできるようになっているのでしょうか。</p>
<p>[事務局] その点については批判が多いため、来年度全面的にホームページを改訂するため予算措置する予定。ホームページの中に、恵庭をPRするような動画をちりばめられないか検討している。</p>
<p>委員長 アクセスしやすさというのは非常に大事。しかし、ホームページというのはひとつの手段にすぎない。広報誌についてはどうか。</p>
<p>[事務局] 来年度、広報の編集のあり方について市民から意見をもらう仕組みを導入する。</p>
<p>○恵庭の広報は、テーマ性が高く、単なるお知らせでなく大変よい。</p> <p>○せっかく全国に誇れる広報誌なのだから、小中学校にも波及してほしい。6万数千人のまちなのに、壁新聞コンクールや読書感想文などでの入賞がない。ちょうど今日、恵庭中学校の1年生がパソコン入力で全国一に輝いた。そういうこともホームページなどで発信してほしい。</p>

○一時期、順位をつけるのはけしからんと、運動会で皆で手をつないでゴールするなどといった風潮があったが、優れたもの、評価すべきものは評価をし、子どもの心の誇りとすべき。
○札幌の福住小学校では、学校のホームページを札幌大学の生徒に手伝ってもらって作っている。恵庭でも専門学校などとの協力が進めばよい。
○ホームページは更新がきちんとされなければ意味がない。
○更新作業は大変。自分のところでも、月に一回の更新に1週間かかる。
○以前、学校のホームページに、3年も前の校長先生の挨拶が掲載されていたということがあった。市外から情報を入手するのはホームページに頼るしかなく、更新がきちんとされていないとおかしなことになる。
○とっくに終わった事業について募集記事が掲載されていたりする。
○学校では得意な先生が自前でやっているのでも、転勤でいなくなるととたんに停止してしまう。
○恵庭の良いところ悪いところに戻ると、恵庭は特徴がないとか何もないとか言うが、発想を変えてみると、恵庭の住宅街は高層マンションがない一軒家が広がっている風景が綺麗。混雑してなくて良い。緑のふるさと森林公園の活用では、何もない自然の状況に触れられるといったことを考えてはどうか。幼稚園や小学生を自然の中で遊ばせるなどの発想が大事。
西島松北地区を見てきた。立派な建物を造っていたが、最初から立派である必要はあるのか。火葬場と公園の間を災害時の仮設住宅の設置場所と想定するなどのまちづくりが大事。巨大工場が来なくても、静かで住みやすいまちということを重視すべき。空き家空き地の活用など、派手でなく地味なまちづくりを進めればよい。
委員長 委員のみなさんの意見は、総じて恵庭は住みやすいということなので、それがまちの特徴であると考えればよいでしょう。
○以前、恵庭市内で恵庭溪谷を巡るバスツアーを企画した。45名の募集に対して2年連続で十数名しか応募がなく、3年目に札幌近郊の住民を対象に募集したところ開始から30分で定員になった。非日常を求めてお互い行き来する仕掛けを作ることが大事。
恵庭に引っ越してきた当時、なんでそんな田舎に行くんだと言っていた友人は、今ではいいところに住んでいるなど言っている。
○恵庭の一番いいところは、道内で随一のアクセスの良さである。恵庭はどういうところか聞かれたら、道内で一番アクセスの良いところだと答えればよい。
○恵庭は、空気が澄んでいて水が美味しい。今では当たり前になってしまったが、最初に感じた印象を大事に持っていたい。
委員長 これからはハードよりソフトが大事という意見が多かったが、ハードはどのようなものが必要だろうか。
○複合的な施設だと思う。地域コミュニティを醸成するにはそういった施設が必要。
○一番ほしいのはそういうもの。恵庭には市民サークルがたくさんあるが、集まる場所がない。市民会館では使用料が高い。
○市内にある小中学校を全面的に開放すればよい。新たに作るのではなく、今ある学校の施設を市民に開放するという発想でいけばよい。
委員長 恵庭では学校の空き教室は多いのでしょうか。
[事務局] 空き教室は少ない。昔と違って音楽教室、コンピュータ教室などの特殊教室が必要だということと、恵庭市内では子どもの数が減っていないので空き教室は少ない。
○空き教室だけでなく、理科室と職員室以外を市民に開放するという考えで進めてほしい。
○総合体育館や図書館は人気もあってすばらしい施設。だが、コーヒーを飲むためのカフェを設置するのはどうかと意見したことがあったが実現されない。
○総合体育館のトレーニングルームは高い。継続的に利用できる料金ではない。
○有識者という人たちが決めてしまったから仕方ない。

委員長 恵庭、恵み野、島松という地域的な部分で施設配置の問題はありませんか。

○その部分は大丈夫でしょう。

○地区会館と憩いの家は同じような施設であるものの、地域の母親たちは憩いの家が使えない。そういうのを改善できないのか。

[事務局] いろいろなご意見をいただいたが、施設の管理・運営なども含めて、行政と民間の協働や民間に任せる業務やその範囲などを検討する組織をこの12月に設け、少し時間をかけて検討していくこととした。

○民間に任せるという点について、コストだけに着目し、民間に任せて安くしようとしがちだが、民間の発想でより良く利用できるということを考え、質を落とさないという点に着目してほしい。

委員長 指定管理制度について、今では問題も出てきている。指定管理業者が指定管理者を返上した事例もあり、自治体が自らやるべきことを民間委託しないようにしなければならない。

○最後に、指定管理者にしても、東京の業者が受けるのではなく、地元の町内の人ができるのであれば、NPOなどでなくとも構わないので、町内会などにやってもらうことも大事。それが協働を考えるうえで大事なこと。

○事務局から提示された部会に「議会」についての部会がない。どういう条例になるかは別にして議論する必要はあるのではないか。

### 3 その他

(1) 次回日程 次回は、1月に日程が取れず、2月10日(金)を予定。  
委員会終了後、ワークショップを開催したい。

(2) 部会調査 委員長と事務局で打ち合わせをし、「議会」についてを含めた部会構成に変更した後、新たに調査票を送付する。